

京都大学医学部附属病院新病棟 施設概要

南病棟



高度・先進医療を実践する患者中心の
アメニティの高い療養環境を創造

病院施設マスタープラン

※コンセプトを明確にした病棟整備

積貞棟 …がん中心の病棟

南病棟 …生活習慣病棟

Ⅱ期病棟 …高度急性期医療病棟



建物配置



工事工程



埋蔵文化財調査着手前
(平成24年7月撮影)

平成24年 7月 埋蔵文化財調査
支障物撤去・移設着工
平成25年 5月 南病棟着工
平成27年11月 南病棟しゅん工



2階躯体
(平成26年10月撮影)



躯体完成
(平成27年6月撮影)

建物概要

建物概要

構造：鉄筋コンクリート造(免震構造)、一部鉄骨造
階数：地下1階 地上8階 :高さ 30.99m
規模：延床面積 22,708㎡ 建築面積 4,206㎡
病床数：414床(個室126室(内シャワー付43室)、4床室72室、計198室)
総工事費：約86億円
工期：着工 平成25年5月 ~ 完成 平成27年11月
移転・開院：平成27年12月27日(日) (予定)

各階の病床配置

8階 …… 眼科
7階 …… 糖尿病・内分泌・栄養内科、神経内科
6階 …… 腎臓内科、免疫・膠原病内科
5階 …… 耳鼻咽喉科
4階 …… 脳神経外科
3階 …… 神経内科、歯科口腔外科
2階 …… 皮膚科、形成外科、初期診療・救急科
1階 …… 整形外科
地階 …… リハビリテーション部、医療情報企画部

設計コンセプト

● 積貞棟・その他周辺建物との調和

※積貞棟のデザインエレメントを継承し、病院全体の外観デザインとの調和を図る。

- 京都らしさの表現・・・ルーバーや庇による陰影のある線材で構成される外観デザインにより、「格子」や「簾」をイメージさせる京都らしい外観を形成する。
- 勾配屋根形状の目隠しルーバー・・・屋上設備機器の目隠しルーバーは、既存積貞棟のデザインを継承し、東山の山並みと調和するスカイラインを表現するため、勾配屋根の形状とする。
- 水平線の強調・・・各階のバルコニーが水平線のイメージを継承する。
- シンプルな平面計画・・・無駄な凹凸のないシンプルな正方形の平面とする。
- 色彩の調和・・・既存建物の色彩を調和した外装材とする。



■ 外 観



南側



東側夜景



南東側



南側の屋上庭園

設計コンセプト

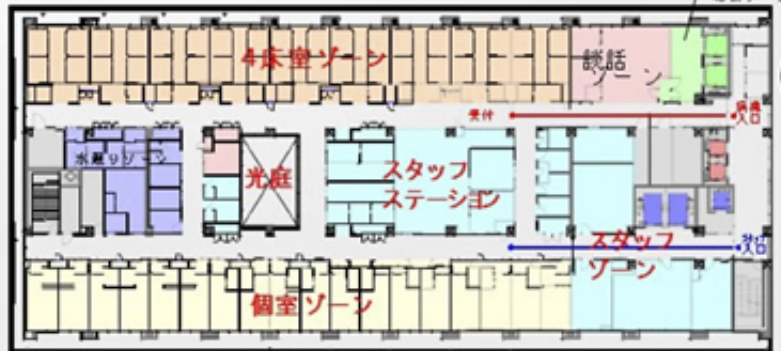
- 機能の充実とアメニティの向上
- 高度先端医療を支える施設
- 快適な医療空間を創造

※基準階の概要

①機能の充実とアメニティの向上

- 光庭を病棟中央付近に設けて自然採光を確保し、療養環境と職場環境を向上させる。
- セキュリティー管理のしやすいゾーニングとする。
- 患者動線と搬送動線の区別により、機能性を向上させる。
- 生体サイクルに合わせた24時間自動調整照明を導入する。(サーカディアン照明)

- 病室は4床室を北側に、個室を南側に配置し、各病室にトイレを分散設置する。
- カンファレンス室は、1フロアに1室の割合で配置し、上下階で共有して使用する。
- 縦動線(EV)は、使用用途毎に区別し、病棟の右側(東側)に集約配置する。
- 病棟フロアは基本的に各階共通の造りとする。
→ 病室の配置やスタッフ室の配置は、特別な場合を除き各階共通とする。
- スタッフステーションはオープンな造りとする。



ゾーン	色
1床室ゾーン	黄緑色
4床室ゾーン	オレンジ色
スタッフゾーン	水色
水廻りゾーン	紫色
談話ゾーン	緑色
給食ゾーン	赤色
敷居ゾーン	灰色

②高度・先進医療を支える施設

- 看護効率が高く、スタッフが身近に感じられる病棟とする。
- スタッフ諸室の集約化により、働きやすく、学びやすい病棟とする。
- 多様なスタッフ諸室の配置により、集学医療の実践を促進する。

③快適な療養空間を創造

- 個人のプライベート領域を形成しやすい4床室のしつらえとする。
- 4床室は8㎡/床を満足し、ベット廻りのスペースを確保する。
- 分散トイレにより早期離床を促す。

基準階(1~8階)



個室



4床室



個室 ユニットトイレ・シャワー

個室 トイレ



基準階平面図

屋上 ヘリポート

1) 災害発生時の対応

- ・地域における中核医療機関として、災害発生時の重症患者さんや負傷者の方々の受入をします。
- ・被災地域の治療中の重症患者さん等を受入、継続的な治療の提供をします。
- ・災害時、患者さん・周辺住民の皆さん等の医療・物資・食糧供給体制の維持確保をします。

災害時の受け入れ体制の強化

2) 重症患者さんの受入

- ・難病・高度医療が必要な疾患に対して、近畿広域圏・西日本において拠点的作用を果たします。
- ・高度医療が必要な重症患者さんへの対応について、移送時の負担の軽減を図ることで、より広域からの受入を可能とします。

広域からの受け入れ体制の構築
難病・高度医療機能の強化

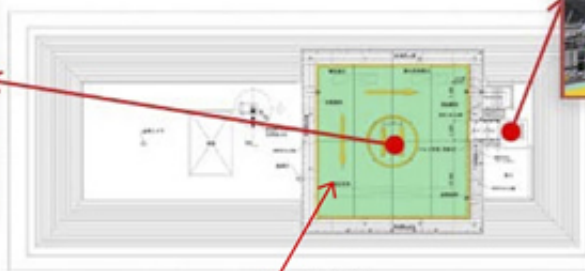
3) 臓器移植時の搬送

- ・京都大学はこれまで1700例を超える肝臓移植、110例を超える肺移植を実施し、生体移植で日本最多、脳死移植では2番目に多い症例数です。
- ・臓器移植の場合は、一刻も早い臓器の搬送が必要ですが、今まで以上に迅速な臓器移植が行えるようになります。

臓器移植時の迅速な対応
臓器移植医療体制の強化



ヘリポート

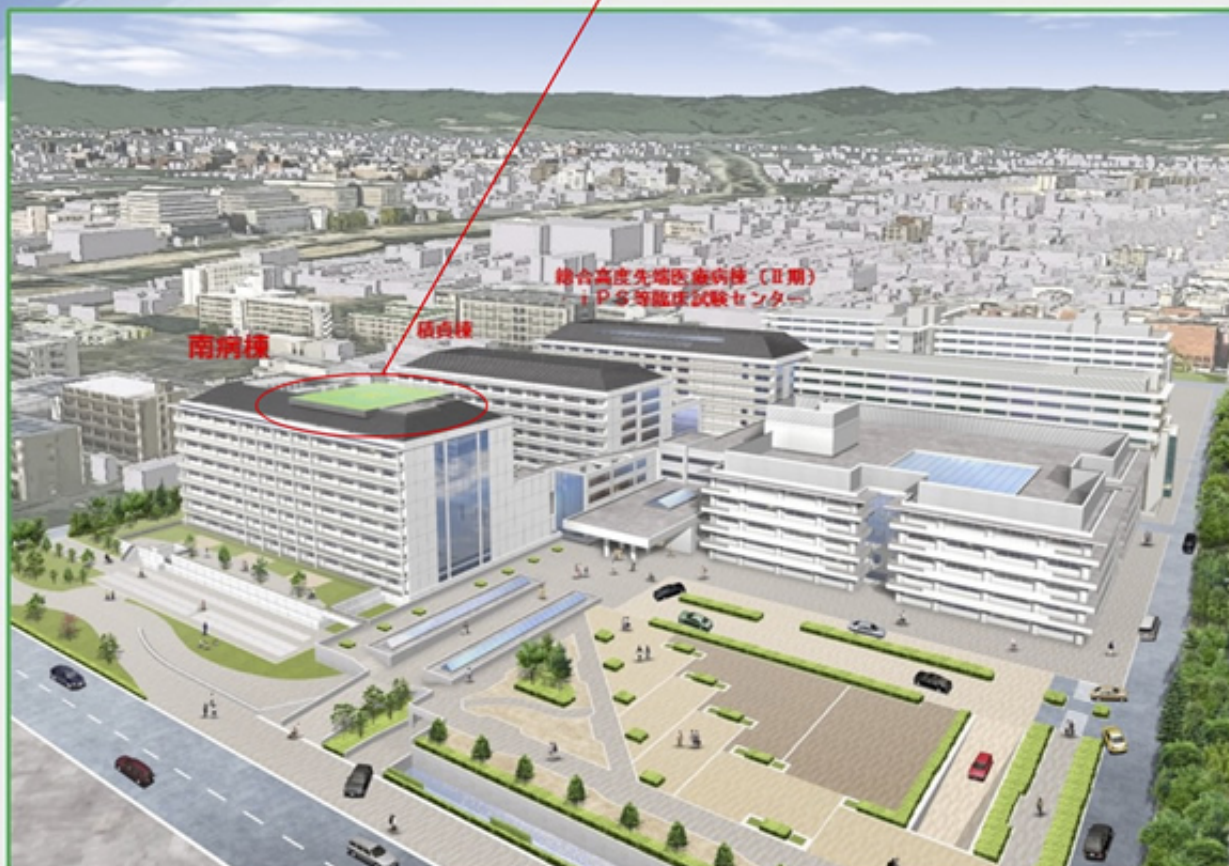


ヘリポート平面図

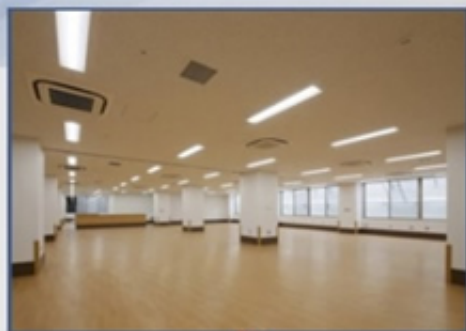


ポンドEV

■ 外観パース



地階 リハビリテーション部、医療情報企画部



リハビリテーション



リハビリテーション

- 地階はリハビリテーション部門や医療情報企画部、昼安室等の共有部門を配置し、1階以上は各診療科の病棟で構成される。
- 他の建物との渡り廊下は、地階はリハビリテーションへの患者、スタッフ及び供給・給食関連の動線とし、1階は患者及び見舞客の動線、4階は手術等への患者搬送動線とする。
- 地階のリハビリテーションエリアは自然光の確保可能な南側に配置した。



設計コンセプト

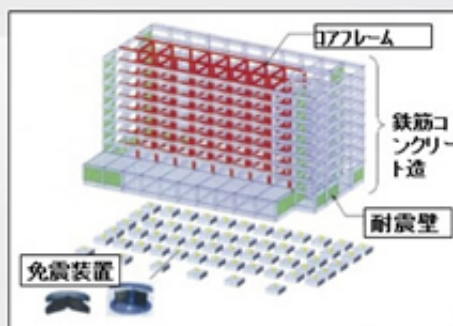
- 柔軟性を確保
- エネルギー使用量の削減

④ 柔軟性を確保

(フレキシビリティを持った構造)

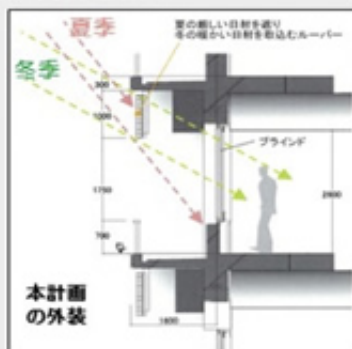
構造計画概要

- 南病棟は、免震構造の採用により、上部構造の地震時の応答を低減させ、医療施設の安定的な運用を可能にしている。
- フラットスラブを病室の床として採用し、フレキシブルな無梁空間としている。建物中央はコアフレームにより水平剛性を確保している。
- 南北面の柱は、偏平なフラットコラムとすることで、柱型を目立たせなくしている。



⑤ エネルギー使用量の削減

(熱負荷低減のためのルーバー)



- 建物の南側に遮光用水平ルーバーを設け、直射日光を遮断している。
- 冬季はルーバーを透過した日射を室内に取り込む計画している。

